



中也のふるさとで詩人のこころを旅する

中原中也 記念館

中原中也は明治40年(1907年)4月29日に、湯田温泉に広い敷地をもつ大きな医院に生まれましたが、その生家は昭和47年(1972年)の火事で茶室と蔵を残して焼失しました。

記念館は平成6年(1994年)2月18日、焼失した生家跡の一部に建てられ、火事の際に運び出された遺稿や遺品を中心に、貴重な資料が公開されています。

館内は「常設固定展示」「常設テーマ展示」「企画展示」の三つの展示コーナーで構成され、中也の草稿・日記・書簡等の資料が公開されています。「常設テーマ展示」は1年ごと、「企画展示」は2ヶ月から3ヶ月ごとに展示替えを行い、何度訪れていただいても在りし日の中也の姿を新鮮に感じて頂けるようになっています。また、パネル展示した詩には鑑賞の手引きとなる簡単な解説が添えられ、さらに、書籍・ビデオ・CD・パソコンなどを通じて、訪れる方の興味・関心に応じた中也の世界に親しんでいただけるコーナーが設けられています。



山口の先人 中原中也 (1907~1937)

山口市が生んだ詩人、中原中也。わずか30年という短い生涯を詩のことに捧げた作品は、年とともに真価を高めていき、昭和期屈指の抒情詩人と言われている。「山羊の歌」や「在りし日の歌」などに代表される作品は、独特のリズムを持ち抒情豊かな彼の作風をよく表している。



時を告げる鐘の音に異国情緒が漂う

山口サビエル 記念聖堂

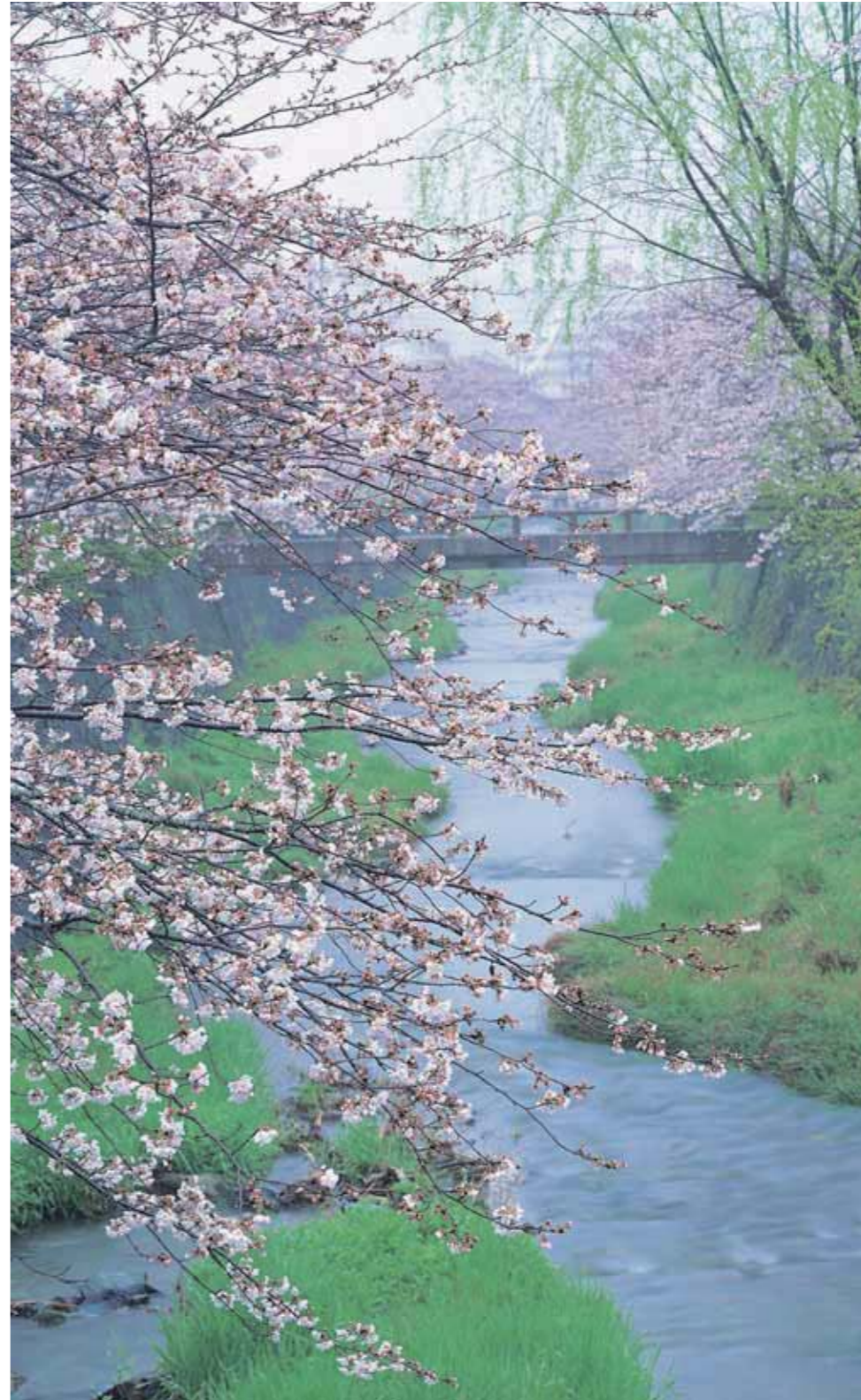
サビエル記念聖堂は、昭和27年(1952年)、サビエルの山口来訪後400年を記念して献堂されましたが、平成3年(1991年)9月5日に焼失し、平成10年(1998年)4月に再建されました。

新聖堂は、神を象徴した「光」と「水」「テント」が全体のテーマになっています。正面にはステンドグラスと十字架が配されており、そのステンドグラスは「光」や「水」など聖書の中に記された神の言葉がテーマとして作られています。また、高さ53メートルの2本の塔を配し、屋根が建物全体を覆う三角錐となっている斬新なデザインで、テント(幕屋)をイメージして作られています。さらに、新聖堂の塔につけられた新しい九つの鐘には、それぞれに平和と幸せを告げるメッセージが刻まれています。



山口の先人 フランシスコ・サビエル

スペイン出身のキリスト教宣教師フランシスコ・サビエルが、31代大内義隆の許可を得て、一庵寺を教会に仕立てて布教を行ったのは天文20年(1551年)のことである。その後、半年間をここ山口で過ごした。



西の京のロマンを秘めた散歩道

一の坂川

その昔、京都を横して造られた、山口の街。市街地を流れる一の坂川は、京都の鴨川に見立てられ、川沿いには町並みが続いています。今なお、往時の情緒が残り、その屋根越しに、八坂神社の赤い鳥居や瑠璃光寺の五重塔を望む事ができます。

春には桜、ツツジ、初夏には国の天然記念物に指定されているゲンジボタルが舞うなど、四季折々ロマンチックな散策道となっています。

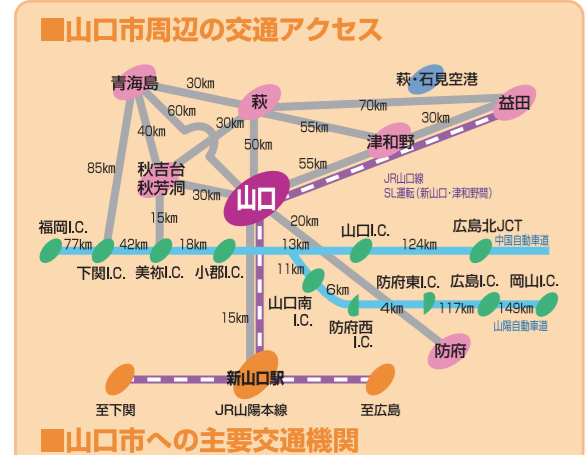


山口の先人 大内弘世

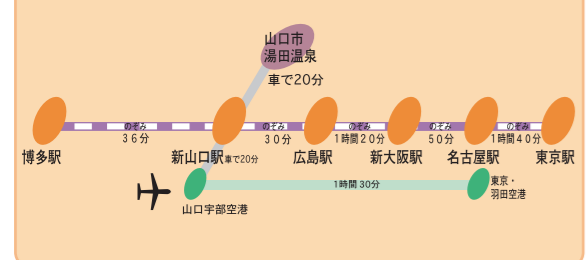
室町時代、西国一の権勢を誇った守護大名大内氏。24代大内弘世は京都に模した街づくりを行い、京都の文化も多く取り入れた。また、弘世は夫人を京都より迎えたが、夫人があまりにも京都を恋しがることから、これを慰めようと京都から呼び寄せた人形師に人形を作らせた。これが大内人形のはじまりと伝えられる。

ACCESS INFORMATION

山口県内観光地への交通のご案内



山口市への主要交通機関

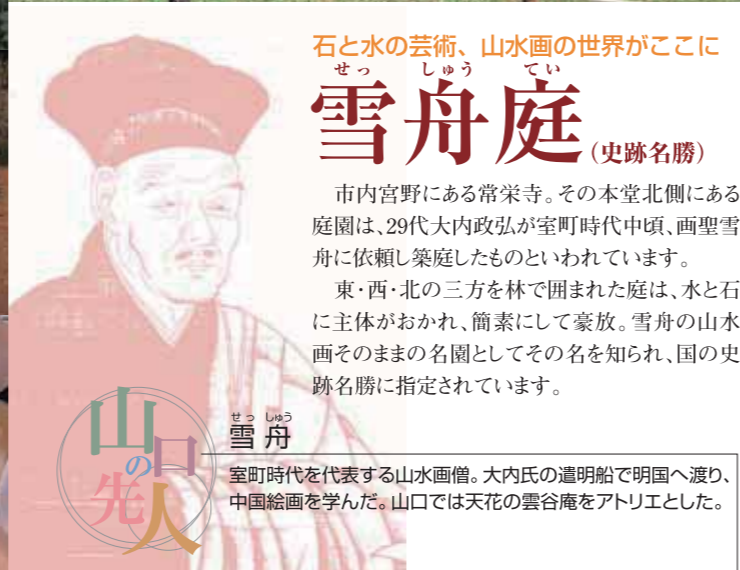


このパンフレットは環境保護の為、再生紙を利用しています。 2010.03. 60,000

山口市観光ガイド

まにまに山口

山口市観光ガイドホームページ http://www.city.yamaguchi.lg.jp/kankei/eng/index.html



石と水の芸術、山水画の世界がここに

雪舟庭

(史跡名勝)

市内宮野にある常栄寺。その本堂北側にある庭園は、29代大内政弘が室町時代中頃、画聖雪舟に依頼し築庭したものとされています。東・西・北の三方を林で囲まれた庭は、水と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られ、国の史跡名勝に指定されています。

雪舟

室町時代を代表する山水画家。大内氏の通明船で明国へ渡り、中国絵画を学んだ。山口では天花の雲谷庵をアトリエとした。



自然に抱かれて栄華の時間を思う

瑠璃光寺 五重塔 (国宝)

山口の歴史を語るには、何といても大内氏から始めなければなりません。その昔、京都に憧れる大内氏が京都を真似、街づくりをした山口。山口盆地に咲き誇った大内文化の華は、31代義隆の時代にその極みに達し、累代の余孽によって財政的にも、文化的にも、さらに権力的にも天下に並ぶ者はないほどでした。山口は平和を保ち「西の京」として繁栄したため、戦乱の京都を避けて山口を訪れる公家や文化人も多かったようです。

瑠璃光寺五重塔は、嘉吉2年(1442年)ごろに建立されたといわれ、大内文化の最高傑作であり、日本三名塔のひとつに数えられています。今では、山口の観光のシンボルとなっており、緑に浮かぶ優雅な佇まいは、時の流れさえもゆっくりに感じさせてくれるようです。



山口の先人 大内義弘

25代大内義弘は文学を好み、和歌や連歌に秀でていた。応永6年(1399年)の応永の乱で自刃したのち、弟の盛見が義弘の菩提を弔うために五重塔を建立した。



白狐が見つつけ、山頭火が愛したお湯

湯田温泉

傷ついた白狐が温泉に足を浸してその傷を癒したという伝説を持ち、古くは大内氏の時代から800年の歴史を誇る湯田温泉。その無色透明のアルカリ性単純泉は、今も変わらず、優しさと温かさが旅の詩情を満喫させてくれます。

山口の先人 種田山頭火

俳句と酒を愛し、全国各地を転々とした。昭和13年(1938年)、湯田に移住、「風来呂」と名付けた庵に住み、酒と温泉を愛した。2年後松山で病没。

歴史

亀山公園 ……D-2
毛利秀元が築城途中で断念した長山城跡を明治33年(1900年)に公園化したもので、その後昭和33年(1958年)に再整備されました。公園内には、明治維新の功労者毛利敬親の銅像があり、桜、つつじなどの木々に囲まれ、四季を通じて市民の憩いの場となっています。

普門寺観音堂 ……D-2
江戸時代末期、幕軍を迎撃するために江戸から戻った大村益次郎がここで洋式軍隊の士官養成を行いました。当時、これを普門寺塾、三兵塾などと呼ばれていました。

藩庁門 (県指定文化財) ……D-2
文久3年(1863年)、萩から山口に藩庁を移し、絶対的権力であった幕府に正面から立ち向かい、新しい時代の訪れに藩を挙げて取り組んだ山口の拠点。現在は、県庁正門脇に残る門と堀が当時の面影を伝えています。

洞春寺山門・観音堂 (国指定重要文化財) ……E-1
応永11年(1404年)、26代大内盛見が建立し、その死後は盛見の菩提寺となりました。創建時の名称は国清寺。その後明治元年(1868年)には毛利元就の菩提寺として洞春寺と改名されました。山門は創建時からのもので、観音堂は大正4年(1915年)に滝町にあった観音寺より移築したものです。

香山公園 ……E-1
瑠璃光寺を中心とした一帯を公園化したもので、幕末、藩主毛利敬親と木戸孝允らとの間で討幕の密議がされた露山堂や三条実美、西郷隆盛が討幕計画を練った枕流亭、また、毛利家の近代の墓がある香山墓所などがあります。

文学 山口市にゆかりのある文人はいろいろ。彼らの足跡を訪ねてみませんか。

嘉村碩多 かむらいそた
明治30年(1897年)、山口市仁保に生まれ、「私小説の極北」ともよまれた独自の私小説を確立。常楽寺をはじめ市内各地に文学碑が建立されています。

国木田独歩 くにきた独歩
父親の転勤で山口に越してきて中学校までこの地で過ごしました。「山の力」など山口を舞台とした短編を発表しています。

種田山頭火 たねだざんとか
酒と俳句を友に、生涯を旅することにした。「現代の芭蕉」。ゆかりの地である山口市湯田には句碑が立ち、自由で素朴な彼の作品が刻まれています。

中原中也 なかはらちゅうや
明治40年(1907年)、山口市湯田に生まれ、「山羊の歌」「在りし日の歌」などの詩集を発表。作品は独自の世界観を持ち、今でも多くの人々に愛読されています。

祭り 自然ゆたかな山口には、伝統を受け継ぎ、自然を愛し、その恵みに感謝する祭りが数多くあります。四季折々に山口を彩る祭りの数々を紹介します。

山口七夕ちょうちんまつり
夏の夜、伝説に因んで白狐に扮した子どもたちが町を回り、街を火の川にします。また、提灯山遊行やサマークリスマス提灯祭りなどが行われます。

一口情報
湯田温泉白狐伝説
その昔、痛ついた白狐が温泉に浸り傷を治していたといわれる湯田温泉。伝説に因み、湯田温泉駅から巨大なモニュメントが造られています。

雲谷庵跡 (市指定文化財) ……E-1
明に渡った雪舟が、帰国後、文永5年(1473年)頃からここに落ち着き永正3年(1506年)87歳で没するまで創作活動をしたと伝えられています。雪舟の代表作国宝「山水長巻」などのほとんどがこの地で描かれたといわれます。

豊栄神社・野田神社 ……E-2
豊栄神社には毛利元就が一致協力するのを促したとされる野田神社の能楽堂で毎年新嘗祭が開催されます。

山口大神宮 ……D-2
足利幕府守護代であった30代大内義興が伊勢神宮を参拝し、永正15年(1518年)に高嶺神社に造営しました。伊勢と同様、素木神明造りで、20年毎に造り替えられてきました。

八坂神社 (国指定重要文化財) ……E-2
応安2年(1369年)、24代大内弘世が京都から勧請し、30代大内義興が大内弘世を高嶺山麓に創建した八坂神社も移設しました。その後元暦元年(1864年)毛利敬親により、野田小路に移設されました。本殿は室町建築の特色を伝えています。

常栄寺・雪舟庭 (国指定史跡名勝) ……G-1
29代大内政弘が画聖雪舟に依頼して築造したといわれています。本と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られています。また現在、常栄寺は毛利隆元の子孫の菩提寺となっています。

築山館跡 (国指定史跡) ……E-2
28代大内政弘が館跡の北に増設しました。築山が見事で、築山御殿と呼ばれ、宗祇の句碑「池は海、こす泉は夏の深山かな」が当時の豪華さを偲ばせています。現在は築山神社が鎮座しています。

古熊神社 (国指定重要文化財) ……E-3
応安6年(1373年)、24代大内弘世が京都の北野神社を勧請し、北野小路に祀り、毛利秀就が元和4年(1618年)に現在地に遷宮しました。本殿、拝殿は室町様式を伝え、墓殿の松竹梅の彫刻との組み合わせは日本最古で貴重なものです。祭神は菅原道真、配神は福部童子です。

龍福寺 (国指定重要文化財) ……E-2
31代大内義隆の滅亡後、毛利隆元は大内館跡に義隆の菩提寺として龍福寺を建立しました。明治14年(1881年)に焼失しましたが、その後明治16年(1883年)に大内村の興隆寺にあった釈迦堂を引当し、本堂としました。

今八幡宮 (国指定重要文化財) ……E-2
応神天皇、仲哀天皇、神功皇后などが祭神で、現在の社殿は室町後期の建立です。本殿、拝殿、楼門は山口地方の特色を見せています。大内氏の山口入り以前の古社として知られています。

常楽寺雪舟庭 (国指定史跡名勝) ……G-1
29代大内政弘が画聖雪舟に依頼して築造したといわれています。本と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られています。また現在、常楽寺は毛利隆元の子孫の菩提寺となっています。

築山館跡 (国指定史跡) ……E-2
28代大内政弘が館跡の北に増設しました。築山が見事で、築山御殿と呼ばれ、宗祇の句碑「池は海、こす泉は夏の深山かな」が当時の豪華さを偲ばせています。現在は築山神社が鎮座しています。

古熊神社 (国指定重要文化財) ……E-3
応安6年(1373年)、24代大内弘世が京都の北野神社を勧請し、北野小路に祀り、毛利秀就が元和4年(1618年)に現在地に遷宮しました。本殿、拝殿は室町様式を伝え、墓殿の松竹梅の彫刻との組み合わせは日本最古で貴重なものです。祭神は菅原道真、配神は福部童子です。

八坂神社 (国指定重要文化財) ……E-2
応安2年(1369年)、24代大内弘世が京都から勧請し、30代大内義興が大内弘世を高嶺山麓に創建した八坂神社も移設しました。その後元暦元年(1864年)毛利敬親により、野田小路に移設されました。本殿は室町建築の特色を伝えています。

今八幡宮 (国指定重要文化財) ……E-2
応神天皇、仲哀天皇、神功皇后などが祭神で、現在の社殿は室町後期の建立です。本殿、拝殿、楼門は山口地方の特色を見せています。大内氏の山口入り以前の古社として知られています。

常楽寺雪舟庭 (国指定史跡名勝) ……G-1
29代大内政弘が画聖雪舟に依頼して築造したといわれています。本と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られています。また現在、常楽寺は毛利隆元の子孫の菩提寺となっています。

築山館跡 (国指定史跡) ……E-2
28代大内政弘が館跡の北に増設しました。築山が見事で、築山御殿と呼ばれ、宗祇の句碑「池は海、こす泉は夏の深山かな」が当時の豪華さを偲ばせています。現在は築山神社が鎮座しています。

古熊神社 (国指定重要文化財) ……E-3
応安6年(1373年)、24代大内弘世が京都の北野神社を勧請し、北野小路に祀り、毛利秀就が元和4年(1618年)に現在地に遷宮しました。本殿、拝殿は室町様式を伝え、墓殿の松竹梅の彫刻との組み合わせは日本最古で貴重なものです。祭神は菅原道真、配神は福部童子です。

今八幡宮 (国指定重要文化財) ……E-2
応神天皇、仲哀天皇、神功皇后などが祭神で、現在の社殿は室町後期の建立です。本殿、拝殿、楼門は山口地方の特色を見せています。大内氏の山口入り以前の古社として知られています。

常楽寺雪舟庭 (国指定史跡名勝) ……G-1
29代大内政弘が画聖雪舟に依頼して築造したといわれています。本と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られています。また現在、常楽寺は毛利隆元の子孫の菩提寺となっています。

築山館跡 (国指定史跡) ……E-2
28代大内政弘が館跡の北に増設しました。築山が見事で、築山御殿と呼ばれ、宗祇の句碑「池は海、こす泉は夏の深山かな」が当時の豪華さを偲ばせています。現在は築山神社が鎮座しています。

古熊神社 (国指定重要文化財) ……E-3
応安6年(1373年)、24代大内弘世が京都の北野神社を勧請し、北野小路に祀り、毛利秀就が元和4年(1618年)に現在地に遷宮しました。本殿、拝殿は室町様式を伝え、墓殿の松竹梅の彫刻との組み合わせは日本最古で貴重なものです。祭神は菅原道真、配神は福部童子です。

今八幡宮 (国指定重要文化財) ……E-2
応神天皇、仲哀天皇、神功皇后などが祭神で、現在の社殿は室町後期の建立です。本殿、拝殿、楼門は山口地方の特色を見せています。大内氏の山口入り以前の古社として知られています。

常楽寺雪舟庭 (国指定史跡名勝) ……G-1
29代大内政弘が画聖雪舟に依頼して築造したといわれています。本と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られています。また現在、常楽寺は毛利隆元の子孫の菩提寺となっています。

築山館跡 (国指定史跡) ……E-2
28代大内政弘が館跡の北に増設しました。築山が見事で、築山御殿と呼ばれ、宗祇の句碑「池は海、こす泉は夏の深山かな」が当時の豪華さを偲ばせています。現在は築山神社が鎮座しています。

古熊神社 (国指定重要文化財) ……E-3
応安6年(1373年)、24代大内弘世が京都の北野神社を勧請し、北野小路に祀り、毛利秀就が元和4年(1618年)に現在地に遷宮しました。本殿、拝殿は室町様式を伝え、墓殿の松竹梅の彫刻との組み合わせは日本最古で貴重なものです。祭神は菅原道真、配神は福部童子です。

今八幡宮 (国指定重要文化財) ……E-2
応神天皇、仲哀天皇、神功皇后などが祭神で、現在の社殿は室町後期の建立です。本殿、拝殿、楼門は山口地方の特色を見せています。大内氏の山口入り以前の古社として知られています。

常楽寺雪舟庭 (国指定史跡名勝) ……G-1
29代大内政弘が画聖雪舟に依頼して築造したといわれています。本と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られています。また現在、常楽寺は毛利隆元の子孫の菩提寺となっています。

築山館跡 (国指定史跡) ……E-2
28代大内政弘が館跡の北に増設しました。築山が見事で、築山御殿と呼ばれ、宗祇の句碑「池は海、こす泉は夏の深山かな」が当時の豪華さを偲ばせています。現在は築山神社が鎮座しています。

古熊神社 (国指定重要文化財) ……E-3
応安6年(1373年)、24代大内弘世が京都の北野神社を勧請し、北野小路に祀り、毛利秀就が元和4年(1618年)に現在地に遷宮しました。本殿、拝殿は室町様式を伝え、墓殿の松竹梅の彫刻との組み合わせは日本最古で貴重なものです。祭神は菅原道真、配神は福部童子です。

今八幡宮 (国指定重要文化財) ……E-2
応神天皇、仲哀天皇、神功皇后などが祭神で、現在の社殿は室町後期の建立です。本殿、拝殿、楼門は山口地方の特色を見せています。大内氏の山口入り以前の古社として知られています。

常楽寺雪舟庭 (国指定史跡名勝) ……G-1
29代大内政弘が画聖雪舟に依頼して築造したといわれています。本と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られています。また現在、常楽寺は毛利隆元の子孫の菩提寺となっています。

築山館跡 (国指定史跡) ……E-2
28代大内政弘が館跡の北に増設しました。築山が見事で、築山御殿と呼ばれ、宗祇の句碑「池は海、こす泉は夏の深山かな」が当時の豪華さを偲ばせています。現在は築山神社が鎮座しています。

古熊神社 (国指定重要文化財) ……E-3
応安6年(1373年)、24代大内弘世が京都の北野神社を勧請し、北野小路に祀り、毛利秀就が元和4年(1618年)に現在地に遷宮しました。本殿、拝殿は室町様式を伝え、墓殿の松竹梅の彫刻との組み合わせは日本最古で貴重なものです。祭神は菅原道真、配神は福部童子です。

今八幡宮 (国指定重要文化財) ……E-2
応神天皇、仲哀天皇、神功皇后などが祭神で、現在の社殿は室町後期の建立です。本殿、拝殿、楼門は山口地方の特色を見せています。大内氏の山口入り以前の古社として知られています。

常楽寺雪舟庭 (国指定史跡名勝) ……G-1
29代大内政弘が画聖雪舟に依頼して築造したといわれています。本と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られています。また現在、常楽寺は毛利隆元の子孫の菩提寺となっています。

築山館跡 (国指定史跡) ……E-2
28代大内政弘が館跡の北に増設しました。築山が見事で、築山御殿と呼ばれ、宗祇の句碑「池は海、こす泉は夏の深山かな」が当時の豪華さを偲ばせています。現在は築山神社が鎮座しています。

常楽寺雪舟庭 (国指定史跡名勝) ……G-1
29代大内政弘が画聖雪舟に依頼して築造したといわれています。本と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られています。また現在、常楽寺は毛利隆元の子孫の菩提寺となっています。

築山館跡 (国指定史跡) ……E-2
28代大内政弘が館跡の北に増設しました。築山が見事で、築山御殿と呼ばれ、宗祇の句碑「池は海、こす泉は夏の深山かな」が当時の豪華さを偲ばせています。現在は築山神社が鎮座しています。

古熊神社 (国指定重要文化財) ……E-3
応安6年(1373年)、24代大内弘世が京都の北野神社を勧請し、北野小路に祀り、毛利秀就が元和4年(1618年)に現在地に遷宮しました。本殿、拝殿は室町様式を伝え、墓殿の松竹梅の彫刻との組み合わせは日本最古で貴重なものです。祭神は菅原道真、配神は福部童子です。

今八幡宮 (国指定重要文化財) ……E-2
応神天皇、仲哀天皇、神功皇后などが祭神で、現在の社殿は室町後期の建立です。本殿、拝殿、楼門は山口地方の特色を見せています。大内氏の山口入り以前の古社として知られています。

常楽寺雪舟庭 (国指定史跡名勝) ……G-1
29代大内政弘が画聖雪舟に依頼して築造したといわれています。本と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られています。また現在、常楽寺は毛利隆元の子孫の菩提寺となっています。

築山館跡 (国指定史跡) ……E-2
28代大内政弘が館跡の北に増設しました。築山が見事で、築山御殿と呼ばれ、宗祇の句碑「池は海、こす泉は夏の深山かな」が当時の豪華さを偲ばせています。現在は築山神社が鎮座しています。

古熊神社 (国指定重要文化財) ……E-3
応安6年(1373年)、24代大内弘世が京都の北野神社を勧請し、北野小路に祀り、毛利秀就が元和4年(1618年)に現在地に遷宮しました。本殿、拝殿は室町様式を伝え、墓殿の松竹梅の彫刻との組み合わせは日本最古で貴重なものです。祭神は菅原道真、配神は福部童子です。

今八幡宮 (国指定重要文化財) ……E-2
応神天皇、仲哀天皇、神功皇后などが祭神で、現在の社殿は室町後期の建立です。本殿、拝殿、楼門は山口地方の特色を見せています。大内氏の山口入り以前の古社として知られています。

常楽寺雪舟庭 (国指定史跡名勝) ……G-1
29代大内政弘が画聖雪舟に依頼して築造したといわれています。本と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られています。また現在、常楽寺は毛利隆元の子孫の菩提寺となっています。

築山館跡 (国指定史跡) ……E-2
28代大内政弘が館跡の北に増設しました。築山が見事で、築山御殿と呼ばれ、宗祇の句碑「池は海、こす泉は夏の深山かな」が当時の豪華さを偲ばせています。現在は築山神社が鎮座しています。

古熊神社 (国指定重要文化財) ……E-3
応安6年(1373年)、24代大内弘世が京都の北野神社を勧請し、北野小路に祀り、毛利秀就が元和4年(1618年)に現在地に遷宮しました。本殿、拝殿は室町様式を伝え、墓殿の松竹梅の彫刻との組み合わせは日本最古で貴重なものです。祭神は菅原道真、配神は福部童子です。

今八幡宮 (国指定重要文化財) ……E-2
応神天皇、仲哀天皇、神功皇后などが祭神で、現在の社殿は室町後期の建立です。本殿、拝殿、楼門は山口地方の特色を見せています。大内氏の山口入り以前の古社として知られています。

常楽寺雪舟庭 (国指定史跡名勝) ……G-1
29代大内政弘が画聖雪舟に依頼して築造したといわれています。本と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られています。また現在、常楽寺は毛利隆元の子孫の菩提寺となっています。

築山館跡 (国指定史跡) ……E-2
28代大内政弘が館跡の北に増設しました。築山が見事で、築山御殿と呼ばれ、宗祇の句碑「池は海、こす泉は夏の深山かな」が当時の豪華さを偲ばせています。現在は築山神社が鎮座しています。

古熊神社 (国指定重要文化財) ……E-3
応安6年(1373年)、24代大内弘世が京都の北野神社を勧請し、北野小路に祀り、毛利秀就が元和4年(1618年)に現在地に遷宮しました。本殿、拝殿は室町様式を伝え、墓殿の松竹梅の彫刻との組み合わせは日本最古で貴重なものです。祭神は菅原道真、配神は福部童子です。

今八幡宮 (国指定重要文化財) ……E-2
応神天皇、仲哀天皇、神功皇后などが祭神で、現在の社殿は室町後期の建立です。本殿、拝殿、楼門は山口地方の特色を見せています。大内氏の山口入り以前の古社として知られています。

常楽寺雪舟庭 (国指定史跡名勝) ……G-1
29代大内政弘が画聖雪舟に依頼して築造したといわれています。本と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られています。また現在、常楽寺は毛利隆元の子孫の菩提寺となっています。

築山館跡 (国指定史跡) ……E-2
28代大内政弘が館跡の北に増設しました。築山が見事で、築山御殿と呼ばれ、宗祇の句碑「池は海、こす泉は夏の深山かな」が当時の豪華さを偲ばせています。現在は築山神社が鎮座しています。

古熊神社 (国指定重要文化財) ……E-3
応安6年(1373年)、24代大内弘世が京都の北野神社を勧請し、北野小路に祀り、毛利秀就が元和4年(1618年)に現在地に遷宮しました。本殿、拝殿は室町様式を伝え、墓殿の松竹梅の彫刻との組み合わせは日本最古で貴重なものです。祭神は菅原道真、配神は福部童子です。

今八幡宮 (国指定重要文化財) ……E-2
応神天皇、仲哀天皇、神功皇后などが祭神で、現在の社殿は室町後期の建立です。本殿、拝殿、楼門は山口地方の特色を見せています。大内氏の山口入り以前の古社として知られています。

常楽寺雪舟庭 (国指定史跡名勝) ……G-1
29代大内政弘が画聖雪舟に依頼して築造したといわれています。本と石に主体がおかれ、簡素にして豪放。雪舟の山水画そのままの名園としてその名を知られています。また現在、常楽寺は毛利隆元の子孫の菩提寺となっています。

築山館跡 (国指定史跡) ……E-2
28代大内政弘が館跡の北に増設しました。築山が見事で、築山御殿と呼ばれ、宗祇の句碑「池は海、こす泉は夏の深山かな」が当時の豪華さを偲ばせています。現在は築山神社が鎮座しています。

古熊神社 (国指定重要文化財) ……E-3
応安6年(1373年)、24代大内弘世が京都の北野神社を勧請し、北野小路に祀り、毛利秀就が元和4年(1618年)に現在地に遷宮しました。本殿、拝殿は室町様式を伝え、墓殿の松竹梅の彫刻との組み合わせは日本最古で貴重なものです。祭神は菅原道真、配神は福部童子です。

今八幡宮 (国指定重要文化財) ……E-2
応神天皇、仲哀天皇、神功皇后などが祭神で、現在の社殿は室町後期の建立です。本殿、拝殿、楼門は山口地方の特色を見せています。大内氏の山口入り以前の古社として知られています。

山口市菜香亭 ……E-2
井上馨や伊藤博文などの政治家や文人が交遊した料亭「菜香亭」。その最も華やかだった昭和11年当時を移築復元。明治時代の建材の残る木造2階建の母屋には12畳置の大広間や居間、客間があり、中世の水墨画や明治以降の政治家・文人等の揮毫等の展示室など、一見の価値があります。

両定寺 ……H-4
もともと応永年間(1400年頃)大内盛見により種楽寺が建立されましたが、焼失。明暦頃(1655年頃)一元寺として再建された。明治4年(1869年)一時合併されますが、その後、両定寺として再興し、今に至ります。現在もみじき寺として有名ですが、境内にはツツピキの群生や一木で五色に咲き分ける五色八重散花も咲きます。

高嶺城跡 (国指定史跡) ……D-1
陶晴賢に擁立された大内義長は、毛利氏の来攻に備え、弘治3年(1557年)高嶺城を築城しましたが、長門に逃れ、長福寺で自刃しました。その後、毛利氏によって廃城されました。

清水寺 (県指定文化財) ……G-3
千手観音菩薩立像を本尊とし、境内には明応2年(1493年)に29代大内政弘により建立された観音堂や、応永7年(1374年)に24代大内弘世により建立された山王社があります。山王社は60年以上もの嵐雪に耐えた木造金剛力士像2体が立っています。いずれも県指定文化財です。

山口市菜香亭 ……E-2
井上馨や伊藤博文などの政治家や文人が交遊した料亭「菜香亭」。その最も華やかだった昭和11年当時を移築復元。明治時代の建材の残る木造2階建の母屋には12畳置の大広間や居間、客間があり、中世の水墨画や明治以降の政治家・文人等の揮毫等の展示室など、一見の価値があります。

高嶺城跡 (国指定史跡) ……D-1
陶晴賢に擁立された大内義長は、毛利氏の来攻に備え、弘治3年(1557年)高嶺城を築城しましたが、長門に逃れ、長福寺で自刃しました。その後、毛利氏によって廃城されました。

山口市菜香亭 ……E-2
井上馨や伊藤博文などの政治家や文人が交遊した料亭「菜香亭」。その最も華やかだった昭和11年当時を移築復元。明治時代の建材の残る木造2階建の母屋には12畳置の大広間や居間、客間があり、中世の水墨画や明治以降の政治家・文人等の揮毫等の展示室など、一見の価値があります。

高嶺城跡 (国指定史跡) ……D-1
陶晴賢に擁立された大内義長は、毛利氏の来攻に備え、弘治3年(1557年)高嶺城を築城しましたが、長門に逃れ、長福寺で自刃しました。その後、毛利氏によって廃城されました。

山口市菜香亭 ……E-2
井上馨や伊藤博文などの政治家や文人が交遊した料亭「菜香亭」。その最も華やかだった昭和11年当時を移築復元。明治時代の建材の残る木造2階建の母屋には12畳置の大広間や居間、客間があり、中世の水墨画や明治以降の政治家・文人等の揮毫等の展示室など、一見の価値があります。

高嶺城跡 (国指定史跡) ……D-1
陶晴賢に擁立された大内義長は、毛利氏の来攻に備え、弘治3年(1557年)高嶺城を築城しましたが、長門に逃れ、長福寺で自刃しました。その後、毛利氏によって廃城されました。

山口市菜香亭 ……E-2
井上馨や伊藤博文などの政治家や文人が交遊した料亭「菜香亭」。その最も華やかだった昭和11年当時を移築復元。明治時代の建材の残る木造2階建の母屋には12畳置の大広間や居間、客間があり、中世の水墨画や明治以降の政治家・文人等の揮毫等の展示室など、一見の価値があります。

高嶺城跡 (国指定史跡) ……D-1
陶晴賢に擁立された大内義長は、毛利氏の来攻に備え、弘治3年(1557年)高嶺城を築城しましたが、長門に逃れ、長福寺で自刃しました。その後、毛利氏によって廃城されました。

山口市菜香亭 ……E-2
井上馨や伊藤博文などの政治家や文人が交遊した料亭「菜香亭」。その最も華やかだった昭和11年当時を移築復元。明治時代の建材の残る木造2階建の母屋には12畳置の大広間や居間、客間があり、中世の水墨画や明治以降の政治家・文人等の揮毫等の展示室など、一見の価値があります。

高嶺城跡 (国指定史跡) ……D-1
陶晴賢に擁立された大内義長は、毛利氏の来攻に備え、弘治3年(1557年)高嶺城を築城しましたが、長門に逃れ、長福寺で自刃しました。その後、毛利氏によって廃城されました。

山口市菜香亭 ……E-2
井上馨や伊藤博文などの政治家や文人が交遊した料亭「菜香亭」。その最も華やかだった昭和11年当時を移築復元。明治時代の建材の残る木造2階建の母屋には12畳置の大広間や居間、客間があり、中世の水墨画や明治以降の政治家・文人等の揮毫等の展示室など、一見の価値があります。

高嶺城跡 (国指定史跡) ……D-1
陶晴賢に擁立された大内義長は、毛利氏の来攻に備え、弘治3年(1557年)高嶺城を築城しましたが、長門に逃れ、長福寺で自刃しました。その後、毛利氏によって廃城されました。

山口市菜香亭 ……E-2
井上馨や伊藤博文などの政治家や文人が交遊した料亭「菜香亭」。その最も華やかだった昭和11年当時を移築復元。明治時代の建材の残る木造2階建の母屋には12畳置の大広間や居間、客間があり、中世の水墨画や明治以降の政治家・文人等の揮毫等の展示室など、一見の価値があります。

高嶺城跡 (国指定史跡) ……D-1
陶晴賢に擁立された大内義長は、毛利氏の来攻に備え、弘治3年(1557年)高嶺城を築城しましたが、長門に逃れ、長福寺で自刃しました。その後、毛利氏によって廃城されました。

大内氏遺跡・凌雲寺跡
至秋芳・凌雲寺跡

至小郡
至新山口

至津和野
至防府

至新山口
至津和野

至防府
至津和野

至津和野
至防府

至新山口
至津和野

至防府
至津和野

至津和野
至防府

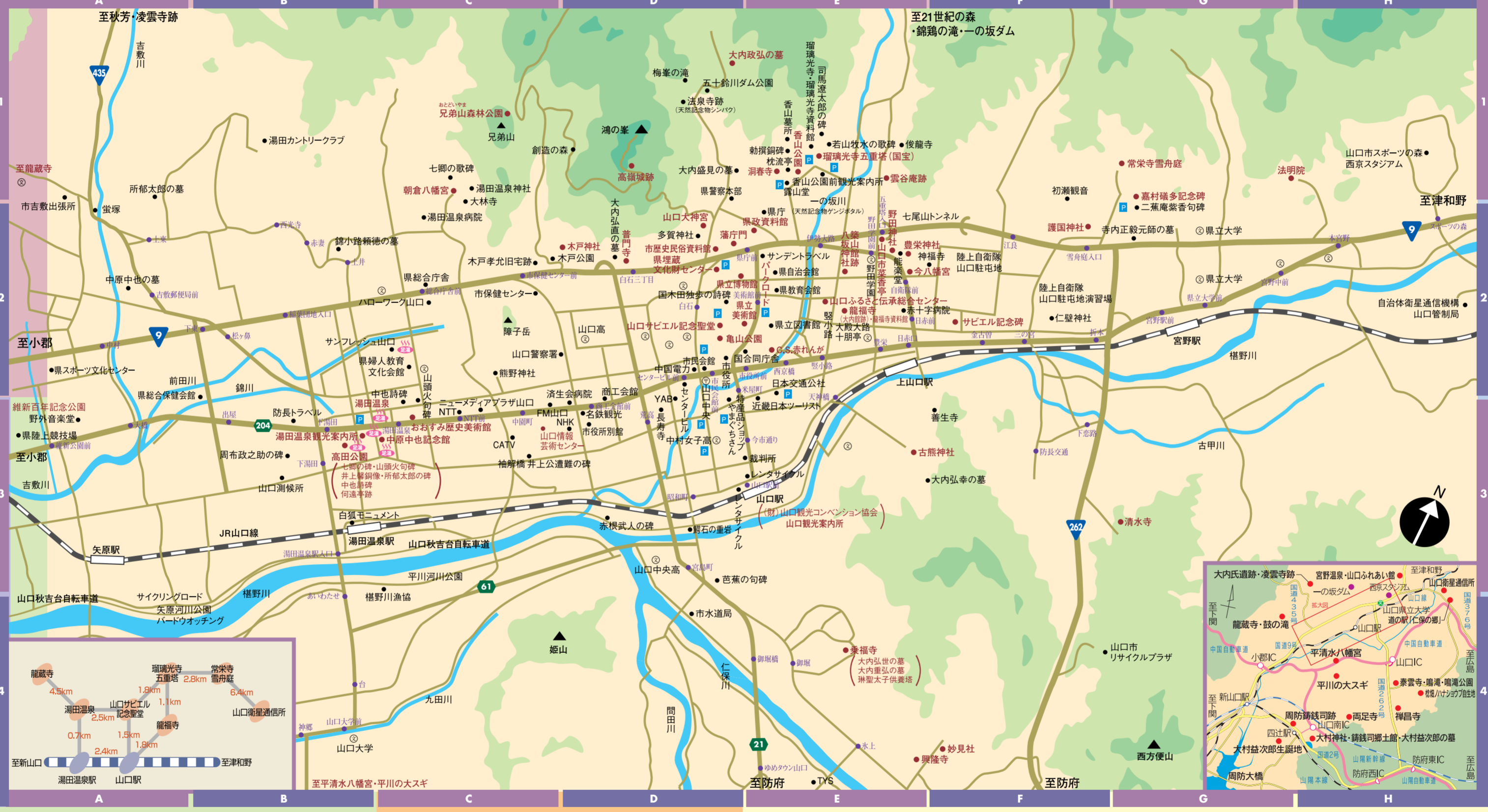
至新山口
至津和野

至防府
至津和野

至津和野
至防府

至新山口
至津和野

至防府
至津和野



街街街

パークロード ……E-2
山口県庁からゆるやかなカーブを描いて伸び、「日本の道100選」に選ばれています。道路と道沿いの散歩道、公園そして美術館や博物館、図書館といった建物とが一体となって美しい街並をつくっています。